

令和2年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業報告書

1 事業概要

平成31年4月から新たに第4期藤沢市地産地消推進計画がスタートし、今年度が2年目となる。今まで継続してきた藤沢産農水産物の旬のおいしさ、魅力を市民に伝え、市内流通の促進、藤沢産農水産物の知識・理解を深め地産地消の推進を図ることについては、令和2年度においても継続した。

事業としては、第4期藤沢市地産地消推進計画の重点的に取り組む施策である「藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化」「藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化」「地産地消の普及啓発・健康施策との連携強化」を中心に実施した。

2 予算を伴う事業について

(1) 実施事業

ア「ふじさわ元気バザール」地産地消イベント事業

ふじさわ元気バザール実行委員会が、毎月第2土曜日に「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」を藤沢駅北口サンパール広場等において開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、4月から8月までと1月から3月までは中止とした。また、9月、10月は荒天のため中止とした。11月には「ふじさわ元気バザール～セレクトマルシェ」、12月は「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」を開催し、市内の新規就農者及び農業後継者が農産物の販売を行い、藤沢産農産物等のPRを行った。

藤沢市地産地消推進事業実行委員会として、「ふじさわ元気バザール」の野菜販売と併せて、農産物のPRを行った。

(ア) 11月14日(土) 11時～14時30分

エコバッグを持参し、藤沢野菜市で野菜等を購入していただいた方、先着200名に藤沢産新米「はるみ(300g)」をプレゼントするとともに、「はるみ」の紹介チラシを配布し、新米「はるみ」のPRを実施した。



上段：当日の様子、下段：配布した新米はるみ

(イ) 12月12日(土) 14時～16時

エコバッグを持参し、藤沢野菜市で野菜等を購入していただいた方、先着100名を対象に藤沢産の花(ビオラ合計200ポット)をプレゼントし、藤沢産花きのPRを実施した。



左：当日の様子、右：配布した花(ビオラ)

イ 試食宣伝販売における藤沢産農産物のPR

藤沢産農水産物の需要拡大及び旬の農水産物のPRのため、量販店において試食宣伝販売（マネキン販売）を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

コロナ禍において実施できる方法を検討した結果、農産物にQRコードを貼付し、それを読み取った消費者に対して農産物の特徴や生産者などの情報を発信することで、藤沢産農水産物のPRを行った。

実施日：2021年（令和3年）3月25日（木）～31日（水）

実施店舗：ヨークマート六会店を中心に、辻堂店、戸塚店、平塚店、
秦野店、小田原店で2,000枚を配布

その他：QRコードへのアクセス状況については、上記の7日間で50名（2.5%）からアクセスがあった。その後、4月6日時点で91名（4.6%）、5月17日時点で125名（6.3%）のアクセスがあった。



左：販売の様子、右：QRコード

ウ 藤沢産利用推進店PR用「食べ歩きマップ」の作成

「食べ歩きマップ（日本語版・英語版）」を作成し、片瀬江ノ島駅及び藤沢駅周辺のホテル、藤沢駅にあるコンシェルジュや藤沢産利用推進店に配架し、藤沢産利用推進店のPRを行った。

- ・ マップ作成エリア：片瀬江ノ島駅周辺（新規）、藤沢駅周辺（増刷）
- ・ 作成数：片瀬江ノ島駅周辺及び藤沢駅周辺、各日本語版2,500部、英語版500部

※みなと春まつりが中止となったため、その予算の一部を流用し、藤沢駅周辺の食べ歩きマップを増刷した。

エ 児童・園児と生産者との交流

(ア) 稲作動画の作成

生産者2名の協力を得て、稲作の耕作の状況や生産者を紹介する動画を作成し、新米が学校給食で提供される時期にあわせてYouTubeにアップして、動画を配信し、地域の農業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図った。

※この動画は、(一社)JAバンクアグリ・エコサポート基金から一部映像の提供を受けているため、YouTubeにはドメイン設定を行い、教育委員会専用ポータルのみで視聴ができるよう制限をかけた。



配信した動画の一部

(イ) ふりふりバター体験事業

市内の乳牛農家を講師に招いて実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により動画出演に切り替え、乳牛農家及び農業水産課から市内の畜産業について話をした後、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験授業を行った。できあがったバターは、藤沢産小麦を使用したコッペパンと一緒に試食をした。

日 時：2021年(令和3年)1月26日(火)

参加者：俣野小学校5年生54名



当日の授業の様子

オ 給食関係職員と生産者等との連携事業

給食関係職員に地産地消への理解を深めてもらうため、給食関係職員が集まる場に、生産者を招き、生産している農産物の話や意見交換を行う機会を作る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により意見交換会を実施することができなかつたため、稲作動画を作成する際に学校の栄養士に協力をしてもらい、給食関係職員と生産者の交流の場を作るとともに動画作成を行った。

カ 地産地消エコバッグ作成

地産地消エコバッグを作成し、ふじさわ元気バザール等のイベントにおいて販売した。また、今後、農業水産課が実施する地産地消に関する講座に参加した方に配付を行っていく予定。

作成個数：1,000個

販売個数：552個

講座参加者等への配付：40個

※残ったエコバッグ408個については、令和3年度に開催されるイベントでの販売や地産地消講座の参加者に配付する予定



左：ふじさわ元気バザールでの販売の様子
中：作成したエコバッグ
右：エコバッグに付けた地産地消缶バッジ

キ PR用のぼり旗の作成

みなと春まつりが中止となったため、その予算の一部を流用し、直売所やイベント時に使用し、藤沢産農水産物をPRするためのPR用のぼり旗を作成した。

作成数：野菜200枚、花き100枚

果樹100枚、植木100枚



作成したのぼり旗

ク 地産地消マスクの作成

みなと春まつりが中止となったため、その予算の一部を流用し、地産地消に関するロゴマークを入れたマスクを作成し、藤沢産サンセットマルシェ等において、藤沢産農水産物のPRチラシとあわせて配布し、地産地消及び藤沢産農水産物のPRを行った。



作成した地産地消ロゴマークが入ったマスク

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業

ア みなと春まつり～藤沢産をまるごといただきます！！～

本イベントは、農畜水産物の販売、魚や畜産とのふれあい、藤沢産利用推進店による飲食ブースを設け、農・畜・水を一体としたイベントを開催し、藤沢産農畜水産物に対する理解を深めるとともに、地産地消の推進を図ることを目的として実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

- ・実施時期：2021年（令和3年）3月
- ・開催場所：片瀬漁港、市民交流広場

3 予算を伴わない事業について

(1) 藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化

ア 藤沢産利用推進店の充実

藤沢産利用推進店登録店舗数の増加及び藤沢産利用推進店における藤沢産農水産物等の需要拡大に向け、新たに市のホームページ等において、藤沢産農水産物等の入手先情報を発信し、生産者と既存の藤沢産利用推進店や新規の藤沢産利用推進店に登録してもらえよう飲食店等とのマッチングを図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、農業者への説明する機会が作れず、令和3年度も継続して取組を進める。

(2) 藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化

ア 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用

(ア) 現行モデル校との調整

既存モデル校3校及び新規モデル校1校の計4校と3学期終了後、振り返り会議等で意見交換を行い、令和2年度の課題や令和3年度の事業計画について、情報共有を図った。

(イ) モデル園の選定及び実施内容の検討

保育園におけるモデル園を新たに選定するため、令和2年度は、試行的に俣野保育園にて11月9日から一週間分の給食において、藤沢産新米「はるみ」を20kg使用した。また、今年度から俣野保育園をモデル園に設定するため、関係課と調整を行っている。

イ 藤沢産農水産物等の使用状況及び生産者との交流状況の調査

藤沢産農水産物等の学校及び保育園給食への供給強化を図ることを目的とし、小学校全校及び保育園全園を対象にアンケート調査を実施し、直接契約による藤沢産農水産物の使用状況や納品方法及び地産地消に関する授業等の生産者との交流状況の調査を行った。

(3) 地産地消の普及啓発・健康施策との連携強化

ア 健康寿命日本一をめざす取組との連携

健康増進課が健康施策として実施する「ふじさわ夢チャレンジ～ふじさわ歩くプロジェクト～」と連携し、SNS等により、旬の農水産物等の情報を発信してもらい地産地消のPRにつながった。

「ふじさわ夢チャレンジ～ふじさわ歩くプロジェクト」において実施するイベントで地産地消のPRを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催方法の変更があり、ブース出展によるPRは中止とした。

また、「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」において、健康増進課と連携を図り、健康づくりのための野菜摂取や藤沢産農水産物のPRを実施した。



上：ふじさわ歩くプロジェクトとの連携
下：ふじさわ元気バザールでの連携

イ 農水産業ふれあい交流イベントの開催（市等の関係団体が実施）

消費者と生産者が「顔が見える」関係を構築することは、消費者と生産者の相互理解につながるため、農水産物ふれあい交流イベントを開催し、消費者と生産者の交流促進に努める。

(ア) 実施したイベント

- a コスモスの摘み取りイベント（10月）
- b ワカメ養殖体験（12月は実施、2月は中止）

(イ) 新型コロナウイルス感染症の影響で中止としたイベント

- a 春の畜産まつり（5月）
- b 地引網漁業体験学習（7月、8月）
- c マダイ稚魚放流体験（8月）
- d 果樹持寄り品評会（8月）
※即売会等は中止し、関係者のみで品評会を実施予定。
- e 植木品評会（10月）
- f 畜産ふれあいまつり（10月）
- g かながわトントンまつり（11月）※県養豚協会主催
- h 園芸まつり農産物品評会（11月）
- i 湘南花の展覧会（2月）
- j ハマグリ稚貝放流体験（3月）

ウ 地産地消講座の開催（市等の関係団体が実施）

藤沢産農水産物等に対する知識・理解を深めてもらい、地産地消の重要性を伝えるため、講座を開催する。

(ア) 実施した事業

なし

(イ) 新型コロナウイルス感染症の影響で中止としたイベント

- a 食育講座（栽培収穫体験型講座）
- b 地産地消講座（収穫体験型講座）
- c 地産地消講座（料理学習型講座）

4 コロナ禍の中で新たに実施された地産地消に関する事業

(1) 市役所本庁舎市民広場での藤沢産農水産物販売について

9月から12月までの間で、市役所本庁舎市民広場において、「藤沢産農水産物への理解促進」「藤沢産農水産物を気軽に購入できる場づくり」「生産者と消費者の交流」など、地産地消の推進を図るため、藤沢産農水産物販売の実証実験を実施した。実証実験が大変好評であったため、農業者及び漁業者が協議会を設立し、2月から「藤沢産サンセットマルシェ」として本格的に実施している。

a 実施日：○実証実験期間

2020年（令和2年）9月23日（水）から12月18日（金）までの間で、32日間（うち3日は荒天等のため中止）

○本格実施

2021年（令和3年）2月10日（水）から毎週水曜日と金曜日に実施

b 実施時間：11時から14時まで

c 出店者：○実証実験 8事業者

（野菜5、畜産1、水産1、花き1）

○本格実施 12事業者

（野菜9、畜産1、水産1、花き2）

※野菜と花重複有



当日の様子

(2) 学校給食において藤沢産和牛を使用した給食の提供について

新型コロナウイルス感染症で影響を受けた県内畜産業を支援する神奈川県の実施校として、藤沢産の湘南和牛をはじめとする神奈川県産和牛肉等が神奈川県から無償提供され、市立小中学校及び白浜養護学校の給食で提供がされた。

a 実施校

市立小学校35校、白浜養護学校及び市立中学校19校

b 実施回数

- ・小学校及び白浜養護学校は、2020年9月から12月までに、各校3回ずつ実施
- ・中学校は、10月から11月までに計3回実施
※中学校給食は選択制デリバリー方式により提供

c 使用する牛肉

藤沢産の湘南和牛、神奈川県産のやまゆり牛等

※神奈川県和学校給食活用支援事業により無償提供

d 給食の献立

湘南和牛のステーキ、湘南和牛の牛丼、ビーフストロガノフ、すきやき煮



左上：小学校給食で提供された牛肉

右上：中学校給食で提供された牛肉、新米はるみ

下段：県産牛肉への理解を深めるため、児童・生徒へ配布したリーフレット等

(3) 藤沢産利用推進店による市役所本庁舎での弁当等の販売について

コロナ禍における緊急事態宣言や時短営業等により藤沢産利用推進店を含む飲食店が厳しい状況下にあるため、藤沢産利用推進店から市役所庁舎で弁当等の販売を行いたいと2月下旬に相談があり、その後、藤沢産利用推進店テイクアウト部会連絡協議会を設立し、3月15日(月)から「コロナ禍における藤沢産利用推進店への支援」「弁当等販売を通じて、藤沢産農水産物のPRを行い、地産地消の推進を図る」ことを目的に藤沢産農水産物等を使用した弁当の販売を開始した。

a 実施日：2021年(令和3年)3月15日(月)から4月30日(金)まで

b 実施時間：16時から18時まで

c 出店者：10事業者



当日の様子